COVDI-19 と Influ. と Common cold

症状・潜伏期間・対応を比較（鑑別診断）

2024 年夏、新型コロナウイルス感染症の第 11 波が到来し感染者数が急増。今冬に新型コロナ感染症と季節性インフルエンザの同時流行が懸念されています。

コロナ・インフルエンザ・一般的な風邪の違い

症状や潜伏期間、検査の推奨期間、対応方法などに違いがあります。潜伏期間（病原体に感染してから症状が発症までの期間）と感染力の違いは以下の通りです。※図 2

新型コロナは、潜伏期間が最長 2 週間程度と比較的長いのが特徴。ウイルスを体内に保有しながら症状が現れない期間が長く、知らないうちに多くの人にウイルスを広めてしまう危険性があります。一方、インフル.の潜伏期間は 1～3 日程度で、風邪と比べても早く症状が発現します。

＜潜伏期間・感染力＞

病名	潜伏期間（一般／最大）	感染力のある期間	感染力が最も強い期間
新型コロナウイルス	1～14日間（平均3日～5日程度）	発症後7～10日	発症2日前～3日
インフルエンザ	1～3日間程度	発症1日前～発症後5日	発症1日前～3日後
風邪	2～4日（原因によって異なる）	発症1日前～7日（原因によって異なる）	発症直後～2日後

図 2

＜症状＞

コロナ感染症では、咽頭痛や鼻汁などの上気道症状に加え、インフル.と類似した症状（発熱・倦怠感・関節痛等）を発症することが多く、味覚・嗅覚障害を伴うこともあります。インフル.は関節痛・筋肉痛等を伴う全身症状が強く現れるのが特徴的です。風邪は軽い咳や鼻水・微熱が中心で比較的軽症です。図 3